

山梨県神社庁報

かみがね

祝祭日には国旗を掲げましょう



11月3日 文化の日
11月23日 勤労感謝の日
1月1日 元日
1月12日 成人の日

令和7年秋号 (第211号)



小室浅間神社 (護國神社招魂祭)

令和7年度神社関係者大会 次第	
日時	令和7年十月十四日(火曜 赤口)
会場	YCC県民文化ホール 大ホール (山梨県立県民文化ホール大ホール)
第一部 神宮大麻暦頒布始祭	
一、	修祓
二、	斎主が一拝す
三、	神饌を供す
四、	斎主祝詞を奏す
五、	豊栄の舞奉奏
六、	斎主玉串を奉りて拝礼
七、	庁長玉串を奉りて拝礼
八、	総代会長玉串を奉りて拝礼
九、	来賓代表玉串を奉りて拝礼
一〇、	神饌を撤す
一一、	斎主が一拝す
一二、	神宮大麻並び暦頒布奉仕者代表に授与
各退出	
休憩	
講 話	
第二部 神社関係者大会	
休憩	
一、	開 式 の 辞
二、	神 宮 遙 拝 辞
三、	国歌 斉 唱
四、	敬神生活の綱領唱和
五、	庁 長 式 辞
六、	総 代 会 長 挨拶
七、	庁 務 報 告
八、	功 績 表 彰
九、	経過報告
一〇、	功績表彰
一一、	山梨県神社庁規程表彰
一二、	山梨県神社総代会規程表彰
一三、	山梨県神社本庁規程表彰
一四、	神宮大麻頒布優良奉仕者表彰
一五、	全国神社総代会規程表彰
一六、	長寿の祝い記念品贈呈
一七、	来賓 祝 辞
一八、	被表彰者 謝 辞
一九、	萬 歳 奉 唱
二〇、	閉 式 の 辞
大会終了	



式

辞

庁長 小佐野 正 史

本日ここに、令和七年度山梨県神社関係者大会を開催いたしましたところ、神社本庁統理様、神宮大宮司様、神道政治連盟会長様をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、県内神社関係者の皆様には、繁忙中にも関わらず多数のご参加をいただき斯くも盛大に挙行できますことは、誠に同慶の至りに存じ、衷心より感謝と御礼を申し上げます。畏くも天皇陛下におかせられましては天機愈々麗しく、日々ご公務にあたられ、ご精励遊ばされておられますこと慶賀に存じます。また、神宮のことに大御心をつかわされますことは、誠に有り難く畏き極みであります。

本宗と仰ぐ神宮の御事につきましては、天皇陛下の御治定を仰ぎ、第六十三回神宮式年遷宮諸祭のうち最初の祭儀である山口祭・木本祭が去る五月二日に、

また六月三日には御杣始祭が厳かに斎行されました。皇室第一の重事、神宮無双の大宮とされて参りました御遷宮が古式ゆかしく鄭重に斎行されるべく、斯界一丸となつて国民総奉賛の機運を昂められるよう、より一層力を注いで参る所存です。皆様の物心両面に亘りますご支援の程、切にお願い申し上げます。さて本年令和七年は終戦八十年の節目の年にあたります。天皇皇后両陛下及び敬宮愛子内親王殿下には沖縄に行幸啓遊ばされました。この秋にあたり皆様と共に改めて、戦歿者に対しまして衷心より慰霊と感謝の誠を捧げたく存じます。

今日の我が国の発展は先の大戦において「国安かれ」の一念のもと、性別や身分に関係なく祖国のために尊い命を捧げられた人々の想いの上に築かれたものであることは言を俟ちません。

更には、その事績を後世に伝えていくことは、我々神社関係者に課せられた責務ではないでしょうか。この機に靖國神社、護国神社に祀られる御霊の御前で、一人でも多くの方が心静かに手を合わせ、慰霊と感謝の誠を捧げられることを切に願います。

転じて昨今の斯界を取り巻く状況に目を向けますと過疎化少子高齢化、食糧問題、昨年発生した能登半島地震をはじめとする度重なる自然災害、今後の神社維持運営に於いて解決しなければならぬ課題が山積しております。

私共関係者は先人達が培ってきた我が国固有の精神文化を基調とした伝統的価値観や道徳意識を一層昂めて参ることが肝要だと思ひます。特に私共関係者は一意専心、神社神道の興隆に邁進する秋と存じます。

地域社会の心の拠り所としての役割を担ってきた神社の祭祀祭礼を賑々しく斎行し、神社と地域を元気にしていかなければなりません。コミュニティの中心に神社があり、祭りを中心に

人々が繋がる。神様への感謝を忘れることなく、大御心をいただきながら日々の生活に励む、そのような人々が地域に溢れる。安寧と平穩を願い、祈りの場として神社が担う役割は極めて重要と考えます。広く皆様の叡智を結集して祭祀の厳修と地域社会の平安に寄与せねばならないものと存じます。

人々の精神的紐帯である神社の歴史と伝統を支えに、神社庁が本来果たすべき役割を考え、五年先、十年先を見据えた展望を描きつつ、更なる発展のために力を尽くして参りたく存じます。どうか皆様方には神社庁の諸施策に対し、倍旧のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、本日功績表彰をお受けになられた方々に対しお祝いを申し上げます、この一年間に物故されました関係各位のご功績を偲び謹んで哀悼の意を表しますと共に、関係神社のご発展と皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。



ごあいさつ

山梨県神社総代会

会長 小 尾 武

錦秋の季節を迎えた今日の佳き日に御来賓の方々を始め、県下各地より多くの関係者にご参列頂き本年の山梨県神社関係者大会が開催出来ます事はご同慶の至りでございます。

神宮におかれましては、第六十三回式年遷宮の諸行事が始まりました。五月には山口祭、

本本祭が斎行されました。六月には、御杣始祭（みそまはじめさい）、九月には御船代祭（みふなしろさい）、が斎行されました。令和八年には御木曳行事がおこなわれます。一日神領民としてご参加下さい。私も申し込みを済ませました。令和十年には鎮地祭が斎行され、令和十一年には宇治橋渡始式がおこなわれ次々と重儀が斎行されていきます。

このご遷宮は、御社殿をはじめ御神宝を新調する物理的な事柄のみならず清々しく常に若々しく命を更新し、永遠の命を継

承する民族の心の原点を見つめ直す契機となり、さらには社会の結束を生みだし、守り継がれた伝統文化を将来に繋げるのが大きな意義であります。この先は募財活動が推進されますが、神社関係者にはご理解賜り、ご協力くださいますようお願いいたします。

全国神社総代会定例代議員会が五月二十日に神社本庁に於いて開催されました。令和六年会務報告、令和六年度の歳入歳出決算も承認されました。

令和七年度の六つの実践目標が審議され承認されました。

①皇室敬慕の念の涵養と神宮崇敬の念の醸成を図る為の活動推進に努める

②靖國神社、護國神社の参拝運動を推進する

③祭祀祭礼の次世代の継承と地域社会の再生・発展に努める

④神道の精神に基づき次代を担う青少年の健全育成と鎮守の森

の保護活動に努める

⑤国旗・国歌及び祝日の意義啓発と我が国柄の継承に努める

⑥適正な神社運営を図り、神社の奉護に努める

又第六十回全国神社総代会が十月二十八日に長野県で開催されることが報告されました。

山梨県に於いては、教化委員会が主催する緑陰子供会が七月十九日に東八代支部に鎮守する兩之木八幡宮で開催されました。

その折にも総代の皆様方にはご協力を頂き、緑陰子供会の意義を全うすることが出来ました。感謝です。

今後各神社で諸行事が開催されましたら、総代の皆様方にはご協力賜りますようお願い致します。

不活動神社については現顧問の中込豊秋会長の思いの下、一社でも少なくしていこうという

ような施策を展開して参りました。その結果、解決するには費用も必要な現実にも突き当たり、各総代の支部ごとに費用の拠出をお願いした経緯もございます。

その現実を思い起こすと、神社庁を中心に今一度結束し成果を

積み上げていきたいと存じます。総代各位には状況を把握して頂き御協力賜りますようお願い致します。

国旗掲揚運動については、昨今委員会が開催されておりません。総代の任期が一定ではございませんので委員の変動が常にありますので開催が伸び伸びとなっておりません。今年末までには是非とも委員会を開催し、令和八年の正月には家毎に国旗掲揚に努めたいと思います。先ずは総代、神社関係者が率先して国旗掲揚運動に努めましょう。私がいつも思うことですが、神社と総代は両輪と云えども、総代は神職を補佐し神社活動に寄与する任務があります。信仰の空気の中でのご奉仕ですので穏やかに楽しく努めたいと存じます。

最後になりますが本日表彰の栄に浴された方々に衷心よりお祝いを申し上げます。又各神社の弥栄と本日ご出席の皆様方のご健勝をお祈り申し上げ御挨拶と致します。

庁 務 報 告

事 業

- 1、神宮大麻奉斎推進
- 2、神宮参宮運動促進
- 3、神殿三大祭斎行
- 4、神宮新穀感謝祭奉賛
- 5、靖國神社公式参拝実現運動実施
- 6、北方領土返還運動継続
- 7、各種研修
- イ、現任神職研修会
- ロ、総代研修会
- ハ、雅楽研修会
- 二、関東地区中堅神職研修会
- ホ、女子神職研修会
- ヘ、初任神職研修
- ト、中堅神職研修
- 8、一都七県神社庁連合会諸会議
- 9 一都七県神社庁連合会当番県
- 10 国旗掲揚運動推進

11 不活動神社対策事業

12 過疎化地域神社対策事業

13 金品寄付者顕彰

14 神政連活動に協力

15 神社奉護運動推進

16 日本会議活動に協力

17 美しい日本の憲法をつくる山梨県民の会活動に協力

18 郷土暦編纂配布

19 庁報「かひがね」年四回発行

神社本庁統理の承認を申請した神社

申請件数

承認件数

内訳

財産処分

建物新改築等

境内地模様替

規則変更

神社合併

一件

一件

神社本庁規程表彰

富士山小御嶽神社宮司 小佐野正史

十五所神社宮司 篠原 敬逸

富士山小御嶽神社権禰宜 佐々木浩文

石和八幡宮総代 高野 博夫

神社庁規程表彰

神明浅間神社宮司 依田 淳

八幡神社宮司 内藤 正隆

告奉斎浅間神社権禰宜 小澤 輝展

富士山小御嶽神社権禰宜 小佐野正崇

一宮神社権宜 鈴木 晃

天津司神社総代会長 中沢 龍雄

令和七年神宮大麻頒布優良奉仕者表彰

特別表彰頒布優良奉仕者

稲積神社権禰宜 土肥 東宮

頒布優良奉仕者

熊野神社権宜 渡邊 ちさ

菅田天神社宮司 後藤 千絵

八王子神社権禰宜 福住 春子

告奉斎浅間神社権禰宜 大嶋 実和

大室八幡神社宮司 千々輪岳史

稲積神社責任役員 小尾 武

頒布優秀神社関係団体

稲積神社外郭団体 稲積神社崇敬青年会

頒布優良支部

東八代支部

北都留支部

全国神社総代会規程表彰

一宮賀茂神社総代 川窪東海彦

義清神社総代 坂本 桂

山梨県神社総代会規程表彰

武田神社責任役員 進藤 中

武田神社総代 五味 武彦

武田神社総代 窪田 一郎

文珠神社総代 森田 新一

三社諏訪神社責任役員 進藤 登一

天神社外郭団体 長松寺北部きがる会

稲積神社敬神婦人会 関口 竹子

稲積神社敬神婦人会 土屋美佐子

稲積神社常若会会長 花輪 武彦

稲積神社常若会副会長 河村 由里

稲積神社常若会会計 小林 宏至

八幡神社奉賛会会長 川崎 博史

神明神社総代会長 後藤 拓

鈴宮諏訪神社総代会長 市村 誠規

日吉神社責任役員 保坂 幸延

日吉神社責任役員 山本 紀雄

八王子神宮大神社外郭団体下幡区長会

【新任神職】

駒ヶ嶽神社宮司 今橋 晶子

建部神社権宜 石原 貞仁

古宮太神社権宜 高野 豪

神明社宮司 垣内 聡

【昇任神職】

日吉山王神社宮司 大村康太郎

武田神社宮司 乙黒 洋

【帰幽神職】

立石神社名譽宮司 高原 左門

駒ヶ嶽神社宮司 今橋 武

神明神社権宜 小林百合子

若宮八幡神社宮司 望月 久男

王法子神社宮司 興石 仁

七日子神社宮司 窪坂 文恒

武田八幡宮権宜 内藤 佑介

【退職神職】

八王子神社宮司 中村 和行

八王子神社権宜 堀内 正一

庁 務 日 誌 抄

祭 儀 関 係

令和六年

神殿月次祭参行

牛倉神社例祭参行

稲積神社崇敬会設立二十周年記念大祭

神宮大麻曆頒布始祭参列

小室浅間神社献幣使参向

峡南支部神宮大麻曆頒布始祭参列

神殿月次祭参行

山梨縣護國神社献幣使参向

靖國神社秋季例大祭参列

山梨県神社庁神宮大麻曆頒布始祭参行

南都留支部神宮大麻曆頒布始祭参列

東八代支部神宮大麻曆頒布始祭参列

甲府支部神宮大麻曆頒布始祭参列

参列、東山梨支部神宮大麻曆頒布始祭参列

神殿月次祭参行

峡中支部神宮大麻曆頒布始祭参列

参列、北都留支部神宮大麻曆頒布始祭参列

峡北支部神宮大麻曆頒布始祭参列

神殿新嘗祭参行

神殿月次祭参行

神殿歳旦祭参行

神殿例祭参行

神殿月次祭参行

山梨縣護國神社紀元祭参列

神宮大麻曆頒布終了祭参列

靖國神社正式参拜

三・二六

三・一五

二・一一

二・一五

二・二一

二・二五

二・三〇

二・三六

四・一 神殿月次祭参行

四・五 山梨縣護國神社例祭参列

四・九 山梨県神社庁役員就任奉告祭参行

四・一二 武田神社例祭参列

四・一二 靖國神社春季例大祭参列

四・一二 神殿月次祭参行

五・三 稲積神社例大祭参列

五・五 北口本宮富士浅間神社献幣使参向

五・一〇 悠紀の里お田植祭参列

六・一 神殿月次祭参行

六・三 御杣始祭参列

七・一 神殿月次祭参行

八・一 神殿月次祭参行

八・一五 県下戦没者追悼式参列

八・二六 山梨縣護國神社正式参拜

八・二六 北口本宮富士浅間神社鎮火祭参列

神 社 本 庁 ・ 神 社 庁 ・ 神 政 連 ・ 総 代 会

令和六年

九・一 牛倉神社献幣使参向(牛倉神社)

九・三 全国神職保護司会大会(中止)

九・七 雅楽研修会(甲)

九・八 雅楽研修会(乙)

九・一八 第五十九回全国神社総代会大会(香川県高松市)

九・六 神社本庁常務理事会(神社本庁)

九・三 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

九・一七 神宮大麻曆頒布始祭参列(神宮・崇敬会地方本部事務局長会(神宮司庁、庁長懇話会(神宮司庁)

九・一八 庁長会(神宮司庁)

九・一九 小室浅間神社献幣使(小室浅間神社)

九・二〇 庁報委員会(山梨県神社庁)

九・二五 神社庁役員会(山梨県神社庁、顧問参与会(ホテル談露館)

九・二六 神社庁研修所祭式講師会(山梨県神社庁)

九・二七 全国敬神婦人全国大会(札幌)

九・二九 峡南支部神宮大麻曆頒布始祭(峡南支部)

一〇・二 一都七県神社庁教化担当署会(東京都、庁報委員会(山梨県神社庁)

一〇・三 神社本庁教誨師研修会(神社本庁)

一〇・四 神社本庁教誨師研修会(神社本庁)

一〇・五 山梨縣護國神社献幣使参向・参列(山梨縣護國神社)

一〇・九 中込豊秋総代会顧問旭日小綬章受賀祝賀会(ベルクラシック甲府)

一〇・一〇 神社庁役員会(山梨県神社庁)

一〇・一〇 計画委員会(山梨県神社庁)

一〇・一〇 靖國神社秋季例大祭参列(靖國神社)

一〇・一九 令和六年度山梨県神社関係者大会(YCC県民文化ホール)

一〇・二四 神社本庁役員会(神社本庁、神社本庁定例評議員会(神社本庁、教化委員会(山梨県神社庁)

一〇・二六 南都留支部神宮大麻曆頒布始祭(南都留支部)

一〇・二七 東八代支部神宮大麻曆頒布始祭(東八代支部)

一〇・二七 甲府支部神宮大麻曆頒布始祭(甲府支部、東山梨支部神宮大麻曆頒布始祭(東山梨支部)

一〇・三〇 峡中支部神宮大麻曆頒布始祭(峡中支部、北都留支部神宮大麻曆頒布始祭(北都留支部)

一一・一 全国総社総会(山梨県神社庁、一都七県神社庁長会(明治記念館、峡北支部神宮)

一一・七 大麻曆頒布始祭(峡北支部)

一一・二二 身分選考委員会(山梨県神社庁、神社庁役員会(山梨県神社庁、神道新嘗祭参行(山梨県神社庁)

一一・二二 新穀感謝祭

一一・二二 神職保護司全国大会(東郷記念館)

一一・二八 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・一九 神社本庁リモート役員会(山梨県神社庁)

一一・二五 山梨県神社庁、山梨県神社総代会研修会(古名屋ホテル)

一一・二八 全国教化担当署会議(神社本庁)

一一・二 神社庁研修所祭式講師会(山梨県神社庁)

一一・三 選挙対策委員会(神社本庁)

一一・三〇 神社庁役員会(山梨県神社庁、神宮大麻都市頒布向上計画委員会(山梨県神社庁)

一一・二二 教化委員会(山梨県神社庁)

一一・二二 神社本庁役員会(神社本庁、庁報委員会(山梨県神社庁)

一一・九 庁報委員会(山梨県神社庁)

一一・一〇 神社庁役員会(山梨県神社庁)

一一・一六 庁報委員会(山梨県神社庁)

一一・二二 神殿例祭参行(山梨県神社庁)

一一・二四 山梨県女子神職会総会(山梨県神社庁、教化委員会(山梨県神社庁)

一一・二七 神宮初参り

一一・二九 神社庁役員会(山梨県神社庁、神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

一一・二五 神道雅楽会琴椿古(山梨県神社庁)

二・二二	(東京部) 教化委員会(山梨県神社庁)	四・九	山梨県神社庁役員就任奉告祭 (山梨県神社庁) 神社庁理事 会(山梨県神社庁)	五・二九	民会館 一都七県神政連時局研修会 (自民党本部)	七・二一	一都七県神社庁連合会第 七十一回中堅神職研修会(乙)
二・二五	一都七県神社庁連合会第七十 回中堅神職研修会(乙) 開講 式(明治神宮会館)・東山梨・ 東八代支部合同祭式研修会 (山梨県神社庁)	四・一〇	神社本庁役員会(神社本庁)	六・一	氏子青年協議会総会(北口本 宮)・浅間神社	七・一九	緑陰子供会(雨之木八幡宮 甲府支部神職総代会合同総会 (ベルクラシック)
二・二六	庁報委員会(山梨県神社庁)	四・一七	神政連山梨県本部常任委員会 (山梨県神社庁)	六・三	神宮大麻都市頒布向上計画委 員会(山梨県神社庁)・表彰 委員会(山梨県神社庁)・神 社庁役員会(山梨県神社庁)	七・二三	北都留支部神職総代会合同総会 (大月市民会館)
二・二七	一都七県神道政治連盟本部長 幹事長事務局長会議(大宮)	四・二二	靖國神社春季例大祭参列(靖 國神社)	六・九	神政連中央委員会(神社本 庁)・神政連本部長事務局長 連絡会議(神社本庁)・庁報 委員会(山梨県神社庁)	七・二四	山梨県神社庁監査(山梨県神 社庁)・山梨県神社総代会監 査(山梨県神社庁)
三・一	一都七県神社庁連合会第七十 回中堅神職研修会(乙) 閉講 式(明治神宮会館)	四・二五	神政連山梨県本部常任委員会 (山梨県神社庁)	六・一〇	神政連中央委員会(神社本 庁)・神政連本部長事務局長 連絡会議(神社本庁)・庁報 委員会(山梨県神社庁)	七・二八	第六十三回神宮式年遷宮委員 会(神社本庁)
三・五	神宮大麻都市頒布終了祭参列 (神宮)・頒布春季推進会議(神 宮会館)・神宮大麻頒布向上 計画研修会(神宮)	四・二七	自由民主党山梨県支部連合会 大会(アビオ)	六・一一	神社庁事務担当者会(神社本 庁)	七・二九	神政連山梨県本部常任委員会 (山梨県神社庁)
三・七	山梨県神社庁臨時協議員会 (山梨県神社庁)・山梨県神社 総代会臨時協議員会(山梨県 神社庁)・神政連山梨県本部 臨時協議員会(山梨県神社庁) 甲府支部総代会研修会(山梨県 神社庁)	五・三	稲積神社例大祭参列(稲積神社 北口本宮富士浅間神社例大祭 献幣使参向(北口本宮富士浅 間神社)	六・一八	全国神職保護司会大会(山梨 県)	八・六	神政連山梨県本部地方議員懇 談会監査(自民党県連本部・ 県議会)
三・一〇	神社本庁理事会(神社本庁)	五・八	悠紀の里御田植祭り参列 女子神職会総会(山梨県神社 庁)・教化委員会(山梨県神 社庁)	六・一九	山梨県女子神職会総会衣紋研 修会(山梨県神社庁)	八・七	表彰委員会(山梨県神社庁)・ 神社庁役員会(山梨県神社 庁)・神宮大麻都市頒布向上 計画委員会(山梨県神社庁)・ 神政連山梨県本部監査(山梨 県神社庁)・山梨県神社庁協 議員会(山梨県神社庁)・山 梨県神社総代会協議員会(山 梨県神社庁)
三・一三	神社本庁理事會(神社本庁)	五・一六	甲府支部祭式研修会(山梨県 神社庁)	六・二〇	山梨県敬神婦人連合会役員会 (山梨県神社庁)・山梨県敬 神婦人連合会総会(山梨県神 社庁)・予算委員会(山梨県神 社庁)・神道雅楽会琴稽古(山 梨県神社庁)	八・八	県下戦没者追悼式参列(山梨 県神社庁)
三・一四	庁長懇話会(明治神宮)	五・一九	神社本庁常務理事会(神社本 庁)・神社本庁役員会(神社 本庁)	六・二四	山梨県女子神職会総会衣紋研 修会(山梨県神社庁)	八・一五	県下戦没者追悼式参列(山梨 県神社庁)
三・一六	氏子青年協議会理事総会(ア ルフイー)	五・二〇	全国神社総代会代議員会(神 社本庁)・國學院大學協議員 会(明治記念館)	六・二五	峡中支部総会(楡形生涯学習 センター)	八・一九	神道政治連盟山梨県本部護国 神社正式参拜(山梨県護国神 社)・神道政治連盟山梨県本 部代議員会(山梨県神社庁)・ 神道政治連盟山梨県本部地方 議員懇談会総会(シャトレ・ ゼホテル談話館)
三・一七	神社庁役員会(山梨県神社庁)	五・二二	神社本庁表彰式(明治記念館)	六・二六	峡北支部総会(須玉町ふれあ い館)		
三・一九	参議院選担当若者会議(ジツト セレモノホール)	五・二二	神社本庁定例協議員会(神社 本庁)	六・二九	神社検定試験会場(山梨県神 社庁)		
三・二六	神政連山梨県本部靖國神社参 拝旅行(靖國神社・横浜中華 街)	五・二三	神社本庁定例協議員会(神社 本庁)	七・三	身分選考委員会(山梨県神社 庁)・神社庁役員会(山梨県 神社庁)		
三・二八	山梨県神社庁教化委員会親子 参宮団(神宮)	五・二四	神社本庁定例協議員会(神社 本庁)・班斂式(神社本庁)・ 庁長会(神社本庁)・東八代 支部神職総代会合同総会(浅間 神社)	七・四	教化委員会(雨之木八幡宮 一都七県神社庁連合会第 七十一回中堅神職研修会(乙) 開講式(明治神宮会館)	八・二六	全国敬神婦人全国大会(青森 県)・北口本宮富士浅間神社 鎮火祭参列(北口本宮富士浅 間神社)
四・一	庁報委員会(山梨県神社庁)	五・二五	南都留・北都留支部祭式研修 会(小室浅間神社)・峡南支 部神職総代会合同総会(六郷町 神社)	七・七	開講式(明治神宮会館)	八・二九	東山梨支部定期総会(山梨市 民会館)・神道雅楽会琴稽古 (山梨県神社庁)
四・四	教化委員会(山梨県神社庁)			七・九	神社本庁役員会(神社本庁)		
四・五	選挙対策委員会(神社本庁)			七・一〇	神社本庁役員会(神社本庁)		
四・七	山梨縣護國神社例祭参列(山 梨縣護國神社)						
四・七八	一都七県神社庁連合会事務職 員研修会(熱海)						

山梨県神社庁経常費歳入歳出決算				自	令和 6 年 7 月 1 日	至	令和 7 年 6 月 30 日
山梨県神社庁経常費歳入歳出予算				自	令和 7 年 7 月 1 日	至	令和 8 年 6 月 30 日
歳入の部							
款項	科目	令和 6 年度決算額	令和 7 年度予算額				
神社本庁幣帛料 負担金 本庁協賛金 神社負担金 神職負担金 特別神社寄贈金 神宮奉賛活動推進費 交付金 神宮神徳宣揚費 神社本庁交付金 財産収入 神殿奉納金 財産利子 預金利子 諸収入 郷土暦頒布費 手数料並授与料 雑収入 特別納付金 当初運営金 繰越金 歳入合計		374,000	370,000	通信運搬費	581,184	900,000	
		22,459,600	22,382,600	賄費	25,615	50,000	
		580,000	580,000	旅費	1,263,140	1,700,000	
		11,312,600	11,303,600	交際費	754,990	900,000	
		8,227,000	8,169,000	慶弔費	185,590	250,000	
		1,940,000	1,930,000	雑費	24,477	100,000	
		400,000	400,000	車両維持管理費	965,827	1,200,000	
		54,509,480	53,900,000	事業費	7,380,717	7,955,000	
		53,600,000	53,100,000	教化関係費	279,488	350,000	
		909,480	800,000	教化委員会費	1,943,266	2,500,000	
		44,186	12,000	地方研修所費	737,318	700,000	
		30,000	10,000	講習会助成費	0	50,000	
		4,592	1,000	庁報発行費	1,168,145	1,200,000	
		9,594	1,000	郷土暦調整費	1,029,872	1,100,000	
		4,719,168	3,762,338	神宮奉賛活動推進費	403,378	400,000	
		1,862,400	1,800,000	指定団体補助金	1,220,000	950,000	
		944,600	500,000	神社本庁協賛金	435,000	435,000	
		742,168	462,338	表彰費	64,250	100,000	
		1,170,000	1,000,000	神社調査費	0	50,000	
		5,000,000	5,000,000	諸祭寄贈金	100,000	120,000	
	7,115,338	7,073,062	一都七県当番県助成金	0			
	94,221,772	92,500,000	神社本庁負担金	4,583,250	4,720,000		
歳出の部							
款項	科目	令和 6 年度決算額	令和 7 年度予算額	大麻暦頒布費	997,928	1,066,000	
幣帛料		376,200	450,000	頒布始祭費	80,000	80,000	
神宮神徳宣揚費		34,187,576	33,860,000	郷土暦頒布交付金	558,720	600,000	
本庁特別納付金		10,747,576	10,700,000	荷造発送費	23,208	50,000	
支部交付金		23,440,000	23,160,000	頒布費	336,000	336,000	
会議費		3,521,455	4,050,000	派遣費	933,970	1,720,000	
役員会費		1,703,358	1,700,000	評議員派遣費	307,160	400,000	
委員会費		142,365	150,000	一都七県連合会派遣費	491,320	1,000,000	
関係者大会費		1,114,317	1,500,000	神宮奉仕員派遣費	20,000	20,000	
参与会費		561,415	700,000	事務担当者派遣費	115,490	300,000	
給料及諸給与		18,740,952	19,190,890	会館運営費	1,232,202	1,480,000	
給料		9,784,800	9,956,400	神殿費	93,430	200,000	
諸給与		2,550,840	2,550,840	借地費	400,000	400,000	
賞与		3,629,300	3,733,650	営繕費	237,322	300,000	
備入料		0	50,000	管理費	373,450	450,000	
社会保険		2,696,566	2,800,000	諸費	128,000	130,000	
福利厚生費		79,446	100,000	資金財産造成費	3,120,000	3,120,000	
庁費		5,974,460	8,500,000	基本財産造成費	10,000	10,000	
備品費		745,742	850,000	予備資金積立金	10,000	10,000	
文房具費		17,621	50,000	職員退職金積立金	500,000	500,000	
図書印刷費		49,050	600,000	会館維持資金積立金	600,000	600,000	
消耗品費		359,993	500,000	神宮式年遷宮積立金	1,000,000	1,000,000	
光熱水費		1,001,231	1,400,000	災害対策基金積立金	1,000,000	1,000,000	
				分担金	300,000	500,000	
				運営資金積立金	800,000	500,000	
				次年度当初運営金	5,000,000	5,000,000	
				予備費	0	388,110	
				歳出合計	87,148,710	92,500,000	

山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出決算 山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出予算			自 令和6年7月1日 至 令和7年7月1日	至 令和7年6月30日 令和8年6月30日		
歳 入 の 部			消 耗 品 費	6,220	10,000	
款 項	科 目	令和6年度決算額	令和7年度予算額	旅 手 費	351,640	1,100,000
諸 収 入	金	3,081,795	3,018,736	慶 弔 費	120,000	120,000
	担 金	1,549,500	1,548,500	役 員 会 費	0	80,000
	金	1,433,000	1,431,000	雑 費	11,494	100,000
	金	0	5,000	全国神社総代会代議員派遣費	38,008	50,000
	入	99,295	34,236	負担金	54,420	200,000
前 年 度 繰 越 金	2,830,746	2,981,264	負 事 業 費	174,600	174,600	
歳 入 合 計	5,912,541	6,000,000		1,957,749	3,700,000	
歳 出 の 部			神 社 振 興 対 策 費	206,075	1,100,000	
款 項	科 目	令和6年度決算額	令和7年度予算額	講 演 会 費	0	100,000
諸 支 出		598,928	1,720,000	功 績 者 表 彰 費	49,620	100,000
	備 品 費	3,870	10,000	研 修 費	280,000	500,000
	文 房 具 費	4,400	10,000	全 国 総 代 会 積 立 金	300,000	400,000
	図 書 印 刷 費	0	10,000	総 会 費	1,122,054	1,500,000
	通 信 運 搬 費	8,876	30,000	予 備 資 金 積 立 金	200,000	300,000
				予 備 費	0	105,400
				歳 出 合 計	2,931,277	6,000,000

神 政 連 山 梨 県 本 部 歳 入 歳 出 決 算				歳 出 の 部			
自 令 和 6 年 7 月 1 日 至 令 和 7 年 6 月 30 日				款 項 科 目		令 和 6 年 度 決 算 額	令 和 7 年 度 予 算 額
神 政 連 山 梨 県 本 部 歳 入 歳 出 予 算							
自 令 和 7 年 7 月 1 日 至 令 和 8 年 6 月 30 日							
歳 入 の 部							
款 項	科 目	令 和 6 年 度 決 算 額	令 和 7 年 度 予 算 額				
会 費		1,833,000	1,840,000	経 常 費		229,430	250,000
特 別 協 賛 金		358,000	368,000	人 件 費		150,000	150,000
法 人 寄 付		1,942,557	1,900,000	備 品 消 耗 費		20,000	20,000
個 人 寄 付		2,975,000	3,550,000	事 務 所 費		59,430	80,000
雑 収 入		167	1,771	政 治 活 動 費		6,727,277	7,500,000
当初運営資金繰入金		0	300,000	組 織 活 動 費		3,143,397	3,800,000
前 年 度 繰 越 金		338,212	340,229	調 査 研 究 費		140,200	150,000
歳 入 合 計		7,446,936	8,300,000	寄 付 金 交 付 金		1,946,300	1,960,000
				研 修 費		1,320,360	1,350,000
				一 都 七 県 会 議 費		118,020	140,000
				そ の 他 の 経 費		59,000	100,000
				運 営 基 金 積 立 金		150,000	150,000
				一 都 七 県 積 立 金		100,000	100,000
				運 営 資 金 積 立 金		50,000	50,000
				当 初 運 営 資 金 繰 出 金		0	300,000
				予 備 費		0	100,000
				歳 出 合 計		7,106,707	8,300,000



金品寄付者に対して感謝状贈呈

神社庁長

◆甲府支部

住吉神社 佐藤勝行

◆南都留支部

富士御室浅間神社 倉澤芳

平

◆峡南支部

浅間神社 磯野医院

◆東山梨支部

諏訪神社 古屋浩紀、杉本

孝、秋山貴洋、日原明仁、

古屋英世、山下章、広瀬実、

楠政実

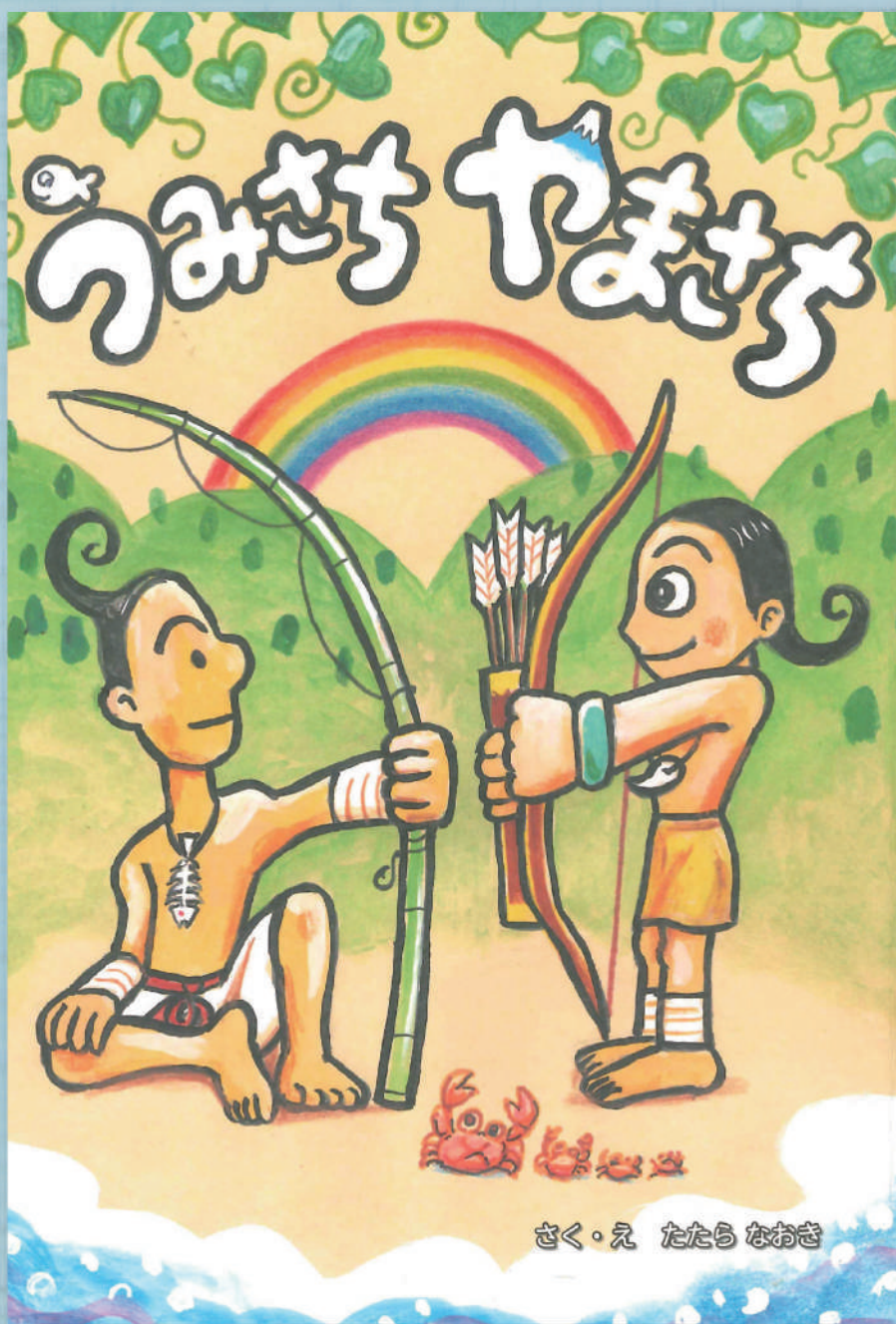
◆南都留支部

浅間神社 原田清、原田正

香

絵本 日本の神話

うみさちやまさち (第三話)

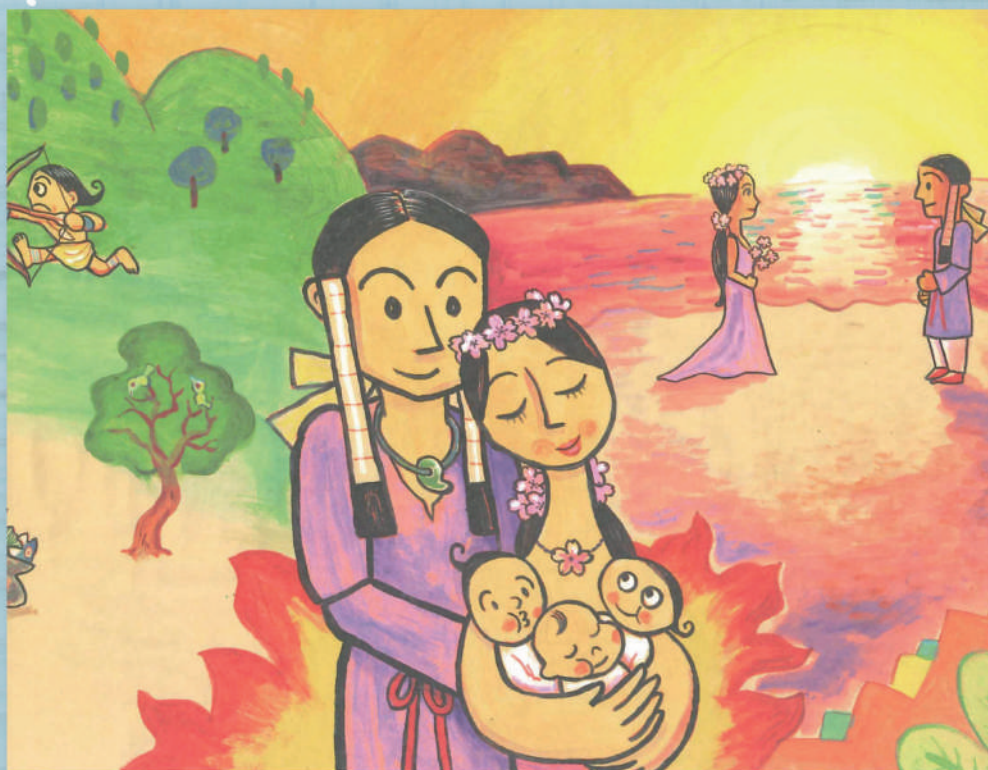


さく・え たたら なおき

「一般財団法人 日本文化興隆財団」提供
問い合わせ 東京都渋谷区千駄ヶ谷四一五十一
電話 〇三―五七七五―一四四五

一冊 二〇〇円

お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。



二 ニギノミコトは

しあわせな国を 作るために
あちらこちらを 見てまわりました。
ある日、女の人に 出会いました。

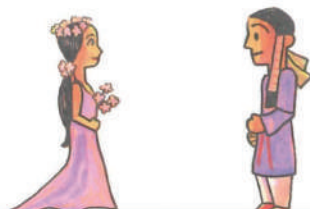
「もしもし、あなたの お名前は？」

「わたくしは コノハナサクヤヒメと 申します。」

「ほくは ニギノミコトと 申します。」

ひとめで 好きになってしまいました。
どうぞ 結婚してください。」

あれよあれよという間に ふたりは むすばれ、
たくさんの 赤ちゃんが 生まれたのです。





いちばん 上の子は「ウミサチ、

いちばん 下の子は「ヤマサチ」。

つりが得意な ウミサチと

かりが得意な ヤマサチは なかよし兄弟です。
ある日、ヤマサチが ウミサチに たのみました。

「きょう一日、弓矢と つりざお かえっこしようよ。」

「ああ、いいとも。でもね、ヤマサチ、
つりばかりだけは なくさないでね。」

「わかった、兄さん、だいじょうぶだよ。」

さっそく つりを はじめましたが、
うんとも すんとも つれません。



**あ**

っというまに 日がくれて、

「もう だめだなあ。」

と あきらめたころ、

さおが ピクツと ひいたので、

えいっと ひいたら 糸が プチッ！

「たいへんだ、つりばりが 持っていかれちゃった！」

家に 帰って あやまりましたが

ウミサチは ゆるしてくれません。

「あれは だいじな つりばりだ。

かならず さがして 持ってこい！」

ヤマサチが 泣きながら さがしていると、

おじいさんが 声を かけてきました。

「この舟に のってごらん。」

きっと さがしものが みつかるじやろつて。」



神宮大麻暦頒布始祭 表彰式・秋季推進会議

東八代支部 支部長 植 松 真 芳

令和七年九月十一日、本年度の神宮大麻暦頒布始祭・神宮大麻暦頒布表彰式・秋季推進会議がそれぞれ神宮内宮神楽殿、神宮会館にて執り行われました。例年九月十七日に斎行されておりますが、今年はご遷宮準備諸事情により、六月に開催している評議員会も九月十日に行い、これに引き続き斎行されました。残暑厳しく天候はやや不安定でありましたが、伊勢の地は参拝者で賑わっていました。頒布祭前日は大宮司様のご招宴があり、親しくご挨拶を賜り、ご参集の皆様と懇親を深め楽しい宴となりました。十一日は早朝外宮内宮特別参拝、内宮神楽殿に於いて神宮大麻暦頒布始祭を斎行、各県神社庁長に神宮大麻を頒ち、引き続き神社本庁奉納の大大御神楽奉納、神宮会館に移動し直会・昼食を摂り、その後の令和七年度神宮大麻暦頒布表彰式にて特別表彰頒布優良奉仕者が報告され、当県では甲府支部 稲積神社 権欄宜 土肥東宮様が表彰されました。引き続き

きの秋季推進会議に於いて九万五千体の減体の報告、地方での人口減少、若い世代に於ける神棚祭祀の無関心が懸念される。とするも、ご朱印のための神社参拝は減つてはならず、神社への関心が少ない訳ではないのも現状である。会議での頒布事例報告は山口県神社庁であり、その報告内容は頒布事例に留まらず、全般の活動について報告され庁HPリニューアル、Instagram「やまぐち神社法画報」発信、神社体験会の開催など。その取り組み方として、先ずは現状を知っての未来像を模索、従来の枠組みにとらわれず、情報発信を共有する。など現代ツールを活かす斬新さと、神社体験などアナログ的に直接触れる事も大切にしているたいへん参考になる報告でした。

お木曳き行事を次年に控え、式年遷宮の御事については少しでも多くの知識を身に付け、氏子崇敬者へ説き、理解を得られたいと考えます。

山梨県神社総代会定例評議員会報告

議長 眞 田 義 継

本年七月十日より北口本宮富士浅間神社氏子総代会長に就任しました。当会の議長は、前任は北口本宮富士浅間神社三枝正満前氏子総代会長が務めていたということで皆様方のご承認を頂き、不肖私が斯様な重責を担う事となりました。浅学菲才の上に不慣れでございますが、皆様方の絶大なるご協力を頂き当会の運営に努めたいと思いますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

委員に穂坂武徳氏と佐野光一氏を選任、いよいよ議事の開始となりました。

議題1として、令和六年度事業報告が事務局より説明され問題なく承認、

議題2として、令和六年度歳入歳出決算報告が事務局より説明され、続いて

議題3として、神社総代会資金現金現在残高が事務局より報告され、続いて

議題4として、監査報告が内藤正隆よりなされ、議題2から議題4が一括承認されました。

議題5として、令和七年度事業について、事務局より説明され、承認可決、

議題6として、令和七年度歳入歳出予算(案)が事務局より説明され、問題なく承認可決されました。

最後に、閉会の言葉が浅川力三副会長より述べられ、議事を全て消化することができました。ご関係各位に対し、厚く御礼を申し上げ報告とさせていただきます。

さて、八月七日(木)午後三時より、山梨県神社総代会定例評議員会が開催されました。まず、神社庁職員により、修祓(参会者全員のお祓い)が行われ、次に小尾総代会長に合わせ神殿にて拝礼し、次に伴奏に続き国歌を斉唱、次に事務局の先導で敬神生活の綱領を唱和し、次に県内で本年亡くなられた神職総代を追悼し黙祷、開会の言葉を石原英司副会長が述べ、小尾総代会長より挨拶、次に小佐野庁長よりご祝辞、議長私と副議長坂本桂氏が着席後、議事録署名

山梨県神社庁定例協議員会報告

議長 桃 井 一 祝

山梨県神社庁定例協議員会が八月七日山梨県神社庁二階会議室において開催された。

修祓、神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、物故者への黙禱の後、小佐野正史庁長から令和六年度庁務概要の挨拶がなされた。

引き続き、事務局より協議員三十三名中二十七名の出席があり、規則により協議員会が成立する旨の報告がなされた。

議事では第一号議案「令和六年度神社庁業務概要報告の件」第二号議案「令和六年度歳入歳

出決算報告の件」第三号議案「神社庁資金現金現在高報告の件」第四号議案「監査報告」が一括

上程された。事務局より説明の後、日原監事より監査報告がなされた。特段の質疑、討論なく承認された。

次いで第五号議案「令和七年度歳入歳出予算（案）の件」が

上程された。事務局より説明の後、特段の質疑、討論なく採決した結果異議なく承認された。

次いで第六号議案「その他」を上程したが、特段何もなく、協議員会は閉会された。

敬神婦人連合会全国大会報告

会長 古 屋 真紀子

八月二十五、二十六、二十七日に青森大会に出席する為に秋田、青森の研修旅行に参加しました。

第七十五回全国敬神婦人会青森大会は、八月二十六日にリンクステーションホール青森で開催され、全国から約六〇〇人が集

い、本県からは十四人が出席しました。

大会前日には、秋田市にある太平山頂上鎮座「太平山三吉神社総本宮」に正式参拝をしました。三吉神社、太平山講、三好講の総本宮として「みよしさん」

「さんきちさん」の愛称で親しまれていて、奥宮は太平山の頂に鎮座し、七月十七日から九月十七日の間御神体を里宮から遷御し、ご祈禱や神符守札の授与を行っていきます。一月に行われる三吉梵天祭は各地区ごとに独特な梵天を作り勇ましく練り歩く勇壮なお祭り、企業や団体の子供梵天など約六十体の梵天が奉納される地域に根差したお祭りだそうです。

次に男鹿市の真山神社にあるなまはげ館男鹿真山伝承館を見学しました。男鹿のなまはげは国指定重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産です。大晦日に各集落の若者が面をつけて藁で編んだケデと呼ばれる衣装を着けて各家を回り新しい年の除災招福を祈る風習です。なまはげ館では、昔ながら家の居間を再現した建物でなまはげの連の所作を見学することができました。なまはげも三吉梵天と同じく毎年、地域の方々が力を合わせて新しいなまはげ衣装を作っているそうです。

男鹿温泉郷に宿泊して、ホテルで参加者の皆さんと交流を深めました。

大会当日は、秋田から青森へバス移動しました。大会は記念清興、山上進氏が演奏する津軽三味線を拝聴しました。

式典は鷹司久美子会長の式辞に始まり、議事に入り、令和六年度会務報告として「地方団体との交流」「社会福祉活動として青森、静岡の療養所の例祭参加」「国旗小旗作成協力」「女子学生への奨学金給付、三名」「単位会の異動報告」などがありました。

令和六年度会計決算報告、令和七年度予算案、活動方針、事業計画案の説明があり満場一致で決定されました。記念講演は青森出身のリンゴミュージック代表取締役の樋川新一氏による「この街で夢をかなえる」地方活性化アイドル達の挑戦」でした。大学卒業後日産で八年働いてから地元に戻り、人、物、こと、ユーモアと情熱で地元の活性化に尽力しています。タレント小林がメンバーだったリング娘をプロデュースしたそうです。来年度の全国大会は埼玉県で開催されます。近県ですので、沢山の方のご参加をお願いします。

神政連山梨県本部活動報告

本部長 渡 邊 平 一 郎

日頃皆様には神政連の活動につき御協力いただき誠にありがとうございます。本年七月二十日に投票が行われた参議院通常選挙の選挙対策会議に於いて「神政連の活動が選挙の応援の活動が主だと理解されている、もっと神政連のことを皆に知ってもらう必要がある」との意見がありました。「かひがね」に紙面を頂いて多くの人々に理解してもらう為に「神政連の活動について報告したらどうか」との声のもとに今回報告させていただきます。

「す」とホームページにあります。そして神政連が目指す国づくりとして、

一、万世一系の皇統と悠久なる歴史を持つ皇室と日本の伝統文化を尊重し、自国の文化に誇りを持てる社会づくりを目指します。

一、日本の伝統と国柄に基づき国土と国民を守ることでできる憲法の制定をめざします。

一、日本を守るために尊い命を捧げられた、靖國神社に祀られる英霊に対する国家儀礼の確立をめざします。

一、国民の生活や社会の重要な基盤となる家族の絆を大切にできる社会の実現をめざします。

一、道徳心や豊かな感受性を育み、子供たちが未来に希望を持つことのできる教育の実現をめざします。

一、日本の史実に対する誤った認識を払拭し、世界から尊敬される道義国家、世界に貢献できる国家の確立をめざします。

一、諸外国と友好親善を深めつつ、北方領土や竹島、尖閣

諸島など、日本の領土を自身で守れる社会をめざし、国民意識を啓発します。

とあります。これらの私達がめざす方向と自民党の方向が重なっている為に選挙で自民党候補を応援して私達の意見を反映させる努力をしているのです。ただ選挙の為に応援団体ではなく私達の目指す国づくりの為に頑張っています。

神政連は北海道から南は沖縄まで日本全国の都道府県に各本部があり、神社本庁内にその中心となる中央本部があります。

中央本部は会長以下各ブロックから選ばれた役員で構成されています。ここで一年間の活動方針・事業計画が作成され、その後各県本部長を中心とした中央委員会が毎年六月にあり、すべてが決定されます。その後我々が応援した国会議員で構成されている国会議員懇談会との懇談があり私達の目指す国づくりの方向に向かっての意見交換をします。神政連の内容及活動について簡単に説明しましたが

説明しましたが、我々山梨県本部に於いては、中央委員会で決定した活動方針に従って事業を計画します。まず役員会を開きその骨子を決め、事業を計画します。そして県内八支部から選出された代議員会を開催して決

定を致します。本年は八月十九日出席の代議員全員で山梨県護國神社に参拝した後、代議員会が開催され山梨県本部活動方針が以下のように決定致しました。

一、皇室の尊厳護持運動

一、自主憲法制定運動

一、教育の正常化と正しい歴史観を後世に伝える運動の推進

一、靖國神社、護國神社参拝推進、国家護持運動

一、国旗掲揚、国歌斉唱の推進

一、組織の強化・会員の増強

一、地方議員懇談会の組織強化
一、時局に応じた諸問題への対応

以上を決定し靖國神社参拝を、令和八年三月二十六日に決定しました。この後地方議員懇談会を開催して県議会議員の先生方と交流を深めました。昨年の衆議院選挙、本年の参議院選挙で自民党が大敗し衆参で与党過半数割れました。石破総裁も辞任しましたが、我々が目指す国づくりには逆の方向に進んでいる様な気がします。新総裁には何とか我々の目指す方向の候補が就任し、我々の子孫が伝統文化に誇りを持って国づくりができることに期待しながら活動致します。皆様御指導、御協力宜しくお願い致します。

支部・総代会だより

峡南支部

一宮賀茂神社

顧問 川 窪 東海彦

伊勢神宮では令和十五年、第六十三回式年遷宮斎行に向け諸祭が本格化しようとしている。今、先人達が氏神様を護り継ぐと篤い敬神崇祖の念の下、様々な困難を乗り越え、常若に努めて来た足跡を顧みることが営々と護り継ぐ責務を担う私共氏子の貴重な教訓であると思います。

私共の氏神様、河内領一宮賀茂神社は、奈良時代・天平勝宝年間創建で、武田氏並びに穴山氏の尊崇篤く、富士川領域十七社の社頭とし河内領一之宮と尊称されて参りました。

しかし、永年の風雪にさらされ、社殿は数年前から雨漏りがひどく建物全体の腐朽が懸念される事態に陥りました。修復には膨大な財源を要す為、早速修復検討委員会を立ち上げ協議を始めましたが、現下の経済状況は極悪で日々の生活に汲々としている状況下での氏神様の修復など論外であるとの厳しい意見が大勢を占め、当面は先送りやむなしの結論に決しようとなり

かけた時、集落の最長老が、「我々の先輩方はどんなに生活が苦しい時も、常に私共を護り続けてくれている氏神様を護るために行動して来た。氏神様に尽くすことで、益々ご利益を戴けるようにと頑張ってきた。だから今があるのだ。ここは先輩方に見習い頑張ろうではないか。」との発言を機に修復賛成への気運が一気に高まった次第です。

令和三年末奉賛活動を開始、四年四月着工、六年三月初旬完成、三月二十四日には竣工奉告祭が斎行され県神社庁長様、県神社総代会長様はじめ多くの方々のご参列を仰ぎ盛大裡に斎行されました。今般の大事業が立派に完遂出来たのは、多くの方々の篤いご奉賛の賜物であると厚く御礼を申し上げます。

諸先輩達が困難を乗り越え取り組んで来た常若事業は、平成十一年十月櫛の杜参集殿建築事業、平成二十一年十月の大鳥居の建替え工事等々である。

私共氏子は今般の大改修を機に日々の生活の真ん中に氏神様がおられることを強く認識し篤い敬神崇祖の念の下、護持運営に万全を期し祭祀祭礼に努め、益々心豊かな希望溢れる地域づくりの為、心を合わせ懸命に取り組んで行く所存であります。

峡中支部

義清神社

総代 河 西 秀 吏

私は昭和二十二年の早生まれなので、早くも満七十八歳となる。

高校卒業後、父の稼業を継いだので両親が亡くなるまで同居の生活だった。

中学生の頃だったろうか。父は私に言った。父母が生前の頃の会話は殆ど忘れてしまったが、この言葉だけは心に残っている。「なんか困ったことがあったら、よしきよさんに行ってみる。それも夜中だぞ。」

何の事か分からないまま長い時間が過ぎた。三十年以上前に両親は相次いでこの世を去っていった。「よしきよさん」とは、現在の西条二区に暮らす人々の平安を守る「義清神社」の事だ。「よしきよさん」は、今から

九〇〇年位前に、現在の茨城県ひたちなか市武田から、甲斐国の市川大門に來た武將だ。義清さんの父である義光は、甲斐源氏の祖と言われている人物だ。

また、長男の清光も勇猛果敢な武將で、現在の北杜市方面に大きな地盤を築いたという。

やがて義清公の子孫は日本各地に転出し、戦国時代の名称である武田信玄は義清公から十八代目になるという。「よしきよさん」は、そのような名將だが「義清神社」のある地は、生涯を閉じる隠居場所だった気がする。人生の最後を平穩に暮らすと、日本一の富士山を望む甲府盆地の中心に庵を構えたことが想像できる。村人は、そのような人柄に親しみを感じ「よしきよさん」と呼んでいたのかもしれない。

さて、生前の父からの一言だが、このような意味だったのだろうか。父の生家は義清神社から一〇〇mもない距離だ。父が戦場に行っている間の母の行動だ。

深夜、姉を抱きそつと家を抜け出し義清神社に行き、父が無事に帰って来る事をひたすらお願いしていたのかも知れない。この話は、両親から聞いた事ではなく私の推測だ。多分、父の言葉の裏側には、母のこの行動が隠されていたのではないだろうか。「昭和一〇〇年」「戦後八十年」が経過した令和七年、義清神社役員として拝殿の新築に取り組んでいる昨今だ。

祭典を斎行して

終戦八十年を迎えて

山梨縣護國神社

榎 宜 羽中田 康 司

昭和二十年八月十五日正午、大東亜戦争の終結を国民や海外の日本軍将兵、在外邦人に向けて昭和天皇がラジオ放送を通じて大東亜戦争終結の詔書を朗読された。「堪えがたきを堪え、忍びがたきを忍び」という文言は有名であり、知っている人も多く居ると思う。

放送を聴いた国民は、戦争で負けた悔しさ、将来への不安などの感情を抱いていたはずである。また天皇が自らの声で国民を励ます姿に国民は様々な思いを心に巡らした事であろう。

戦後生まれの我々は、終戦当時の国民の気持ちや感情は、想像する事しか出来ないが、人として理解する事は出来るだろう。

この終戦を伝える放送から八十年を迎えた。全国の護國神社五十二社では、天皇陛下から賜った幣帛を御神前に供え、終戦八十年臨時大祭が斎行される。御遺族も高齢化し大祭に参列される方も全国的に少なくなると思うが、英霊顕彰を国民は続

けなければならぬと、これは人として、日本で生活する国民として忘れてはならない事である。だが、現実には英霊に対して無関心の国民が殆どである。これで善きとは思いたくない、御遺族、遺児が少なくなり、ここ数年で解散となる遺族会も多くなるであろう。

終戦八十年を迎え国民一人一人が英霊に対しての考えや思いを改める時が来たと感じる。



護國神社招魂祭（大明見地区 戦死者慰霊祭）を斎行して

小室浅間神社

宮司 宮 下 重 範

当神社の境内に護國神社が鎮座しており、日露戦役・日支事変・大東亜戦争において大明見から出征し、戦歿された百四十六柱の英霊が祀られています。

招魂祭は、従前から大明見地域の戦歿者の御霊を慰霊し、ご遺族の皆さん方の励ましと、お心の支えを図り、大明見財産区と大明見連合自治会が協働して、部落を挙げて毎年秋の彼岸の中日である九月二十三日に実施されて来たものですが、平成十一年頃、地域の氏神様である

当神社へ託されたものであり、以来神社に於いて斎行しているところです。

今年も、ご遺族をはじめ、富士吉田市長（名代の副市長ご臨席）、地域地盤の代議士（名代の秘書官ご臨席）、市議会議員、市遺族会長等のご来賓や、地元の財産区、自治会を始めとする各種団体、地域関係者の皆さん方をお招きして、総勢百名を超える方々が列席されて、護國神社の社前において旧来に準じて祭典を斎行したところです。

祭典は、開式・黙禱に始まり、次第に従い厳肅の裡に逐次執り進められ、祝詞奏上の後に、僧侶の読経、財産区議長と連合自治会長による祭文の奏上、副市長以下ご来賓の皆様方より、不戦の決意を込められた慰霊と追悼の辞を賜り、列席された皆さんによる玉串拝礼が行われ、最後にご遺族を代表して、大明見遺族会長が謝辞を述べられて閉式となりました。

今年も、大東亜戦争が終結して八十年を数える、大きな節目の年を迎えております。

五重塔と富士山・桜が織りなす日本の象徴として、近年一大観光地となった忠霊塔に祀られている市内の戦歿者千五十五柱に比し、大明見一部落の戦歿者

は百四十六柱と一割以上に及んでいます。

この様な多くの尊い命が失われ、父や兄弟、夫や息子など掛け替えない存在を失い、残されたご遺族の皆さんは、筆舌に尽くせぬ労苦・辛酸を味わい、それを乗り越えながら生きることに邁進し、長い年月を経て今日の平穏な日々を送るところとなったものです。

招魂祭は、戦争で散華された方々の御霊の慰霊だけでなく、この様なご遺族の皆さんの深い悲しみや痛みに向き合い、二度と同じ悲劇を繰り返してはならないと云う強い決意を表しているもので、今後共、平和を願い尊ぶ場でありますので、誠を尽くし取り組んで参る所存です。



緑陰子供会報告

教化委員会 事業部員 後藤 千 絵

教化委員会では、過疎化対策神社に指定されている神社を氏子の皆さんに知っていただく機会として、緑陰子供会を開催している。今年は、七月十九日に東八代支部の兩之木八幡宮（古屋真弘宮司）に於いて開催された。

昨雨が雨天で延期となり、心待ちにしていた参加者もいたのか、午前九時受付で十名の子ども達と引率者二名が集まった。始めに拝殿にて、みな神妙な顔つきで正式参拝をし、宮司様の講話の後、記念撮影を行い、神道雅楽会の皆さんの雅楽を鑑賞した。境内に厳かな音色が響くと、近所の方達も音につられて鑑賞に訪れていた。その後の神道青年会員とのレクリエーションでは、子どもたちも緊張の糸がほぐれたのか一気に打ち解けて、賑やかな声が境内に響いた。竹を使った箸作りでは、普段使い慣れないカッターを用い

て昼食に使う箸を作る体験は子ども達にとっても新鮮なようでみな夢中になっていた。思い思いの箸が出来上がり、食前食後の挨拶にも感謝を込めて、お待ちかねのうどんとおにぎりの昼食を美味しく召し上がって頬張っていた。昼食後、お腹もいっぱいとなりパワー全開となった子ども達は、楽しみにしていた勾玉作りを行った。根気のいる作業ではあったが、少しずつ形になり綺麗に輝いていく勾玉のように光り輝いて見えた。最後に火鑢体験を行い閉会式となった。

梅雨明けの猛暑の中だったが、各自で熱中症対策を講じ楽しく過ごす事が出来た。神社で過ごした一日は子ども達の五感を刺激する体験となったことと思う。これからも神社や神道に親しみをもってもらい、氏神様を大切に守っていただきたいと切に願う。

祭典日程

10・20	市川三郷町鴨狩津向城山神社秋祭 南
10・25	アルプス市上今諏訪神社秋祭 南
10・25	南アルプス市吉田諏訪神社秋祭 南
10・26	藤井町南下條福地八幡神社秋祭 南
11・3	武田神社御祭神生誕祭 大嶽山那賀郡 神社紅葉新祭 市川三郷町市川大門町 弓削神社秋祭 八代町永井天神社秋祭 大祭 富士川町青柳町諏訪神社秋祭
11・15	富士吉田市上暮地神明社七五三詣 山中湖村山中浅間神社七五三祭
11・16	甲府市高畑住吉神社秋祭 南
11・17	甲府市愛宕町愛宕神社秋祭
11・19	小室浅間神社室宮恵比寿祭（二十一日）
11・22	南アルプス市高尾穂見神社秋祭（二十三日）
11・23	住吉神社新嘗祭 生出神社新嘗祭 甲府市宮前町八幡神社新嘗祭 甲府市国玉町玉諸神社新嘗祭 神宮大麻頒布祭 大月市駒橋三嶋神社新嘗祭 酒折宮新嘗祭 甲府市湯田甲府恵比寿神社秋祭 勝沼町泰山古宮太神大祭 勝沼町講祭 勝沼町泰山古宮太神大祭 中央市浅間諏訪神社秋祭 新嘗祭 身延町帯金八幡大神社新祭（新嘗祭） 身延町帯金八幡大神社新祭 感謝祭 南アルプス市上今諏訪神社新嘗祭 市川三郷町市川大門町 弓削神社秋祭 八代町永井天神社秋祭 大祭 富士川町青柳町諏訪神社秋祭
11・24	富士吉田市松尾神社新嘗祭
11・25	小淵沢町小淵沢北野天神社新嘗祭
12・6	大泉町谷戸逸見神社新嘗祭
12・7	長坂町長坂上条穂見諏訪十五所神社厄神祭
12・9	金櫻神社鎮火祭
12・12	甲斐國一宮浅間神社真賀社祭
12・12	長坂町長坂上条穂見諏訪十五所神社新嘗祭・大祓式
12・31	甲斐國一宮浅間神社大祓 稲積神社年越大祓 甲府市宮前町八幡神社大祓 甲府市国玉町玉諸神社大祓 七保町葛野御嶽神社大祓 甲府市東光寺山八幡神社大祓 身延町下山一宮賀茂神社大祓 長坂町長坂上条穂見諏訪十五所神社除夜祭 大泉町谷戸逸見神社大祓・年越祭 山中湖村山中浅間神社大祓式 高根町箕輪建部神社大祓
1・1	菅田天神社元旦祭 市川三郷町宮原浅間神社歳旦祭 七保町葛野御嶽神社元旦祭 富士川町青柳町諏訪神社元旦祭 南アルプス市小笠原笠原神社元旦祭 南アルプス市下宮地神部神社元旦祭 藤井町南下條福地八幡神社歳旦祭 長坂町長坂上条穂見諏訪十五所神社歳旦祭 大泉町谷戸逸見神社歳旦祭 忍野村忍草浅間神社歳旦祭 忍野村内野浅間神社歳旦祭 初狩町下初狩八幡神社元旦祭
1・14	長坂町長坂上条穂見諏訪十五所神社筒粥神事（一五旦）
1・15	都留市朝日馬場石船神社初祭り
1・17	富士吉田市上吉田山神社春季祭 富士吉田市新屋山神社正月祭

参加者 中土井 明 歩 きん

私は兩之木神社での緑陰子供会に参加しました。この会で楽しかったことやとても良い思い出になったことはいっぱいありますが、そのなかの三つを紹介します。

一つめは、はし作りです。私は「おはしを作らないとごはんが食べられないよ!」と言われて「ほんとうにできるかなあ」とヒヤヒヤしました。作りはじめてから最初は竹をけずっているとトゲトゲして難しかったです。でもだんだんコツをつかんできて、さいごには完ぺきなはしになって良かったです。

二つめはわたしがその中で一番楽しみにしていたまが玉作りです。しかし開始五分でまが玉をみがいていた手がつかれまして。私はみがくのがこんなに苦労するんだとはじめてしつてびっくりしました。どんどんみがいていくと少しずつ丸い形になってきてうれしくなりました。私はみがくのに夢中になって手がいいたいのかわすれてしまいました。そしておわるころにはしろいなめらかなまが玉ができ大

切な宝物となりました。

三つめは火おこしです。火おこしも体験してみました。外は湿気がすごかったのでもうは出たけど火はつきませんでした。そして私は火のありがたみを実感しました。また、「昔の人は火をつけるのにもひと苦労していたんだなあ」とも思いました。この三つの楽しかった思い出を大切にしていきたいです。そして、また緑陰子供会に参加したいです! スタッフのみなさまもありがとうございました。



遷宮だより

第六十三回神宮式年遷宮 宮山祭場で御船代祭

— 童男・童女も
奉仕し厳かに —

第六十三回神宮式年遷宮の諸祭の一つである御船代祭が、天皇陛下の日時御治定を賜り、九月十七日に皇大神宮（内宮）、十九日に豊受大神宮（外宮）それぞれ宮域内に設けられた宮山祭場で斎行された。内宮・外宮の祭儀にあはせ、木曾谷・裏木曾の御杣山では「伐木の儀」が執りおこなわれ、それぞれの御船代を奉製する御用材が伐採された。

御船代祭は、御神体を納める



「御樋代」をさらに納めるための御器「御船代」の御用材を伐採するにあたって「御杣山の木の本に坐す大神等」を祀り、御船代が無事奉製されることを祈念する祭儀。天皇陛下から今年七月七日に日時の御治定を賜り、神宮当局と神宮式年造宮庁とで諸準備が進められてきた。

（出典 神社新報）



敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩
とに感謝し、明き清
きまことを以て祭祀
にいそしむこと

一、世のため人のために
奉仕し、神のみこと
もちとして世をつく
り固め成すこと

一、大御心をいただきて
むつび和らぎ、国の
隆昌と世界の共存共
栄とを祈ること

今後の予定

○新穀感謝祭

我が国の御親神、心ふるさとと仰ぐ「お伊勢様」。その限りない御神恩に感謝の真心を捧げ、「瑞穂の国」と称えられた我が国柄への思いを新たにすると新穀感謝祭を左記の日程により開催いたします。

本年も多くの皆様のご参列を得て、奉賛の喜びを共に致したく存じます。

記

一、日時

令和七年十一月十三日・

十四日（一泊二日）

神宮では御垣内にて特別参拝、参拝記念が撤下されます。

宿泊ホテル、行程、参加費は支部によって異なります。支部役員・神社宮司にお尋ね下さい。

○神殿新嘗祭

初穂を供え、今年一年の収穫の感謝と喜びを神々に奉告する「新嘗祭」恒例による神事を下記により斎行致します。

記

日時

令和七年十一月五日（水）

午後一時三十分
場所 山梨県神社庁神殿

○神社庁神殿祈年祭並びに教化講演会のお知らせ

神社庁神殿祈年祭並びに教化講演会を左記の日程で斎行いたします。

記

一、日時

令和八年二月十日

（火曜・仏滅）

一、日程

神殿祈年祭

午後一時三〇分

教化講演会

午後三時

一、講師

皇學館大学助教

小林 郁 先生

一、講演内容

伊勢神宮

「お伊勢参り」の魅力

一、場所

山梨県神社庁 神殿

神棚差し上げます



神社庁
ホームページ



緑陰子供会